

宮島ライオンズクラブが善行表彰

宮島の新たな名所「からくり時計」

宮島桟橋旅客ターミナルに「からくり時計」を寄附された宮島ライオンズクラブが廿日市市表彰条例に基づき、善行表彰を受けられました。(11月11日付)

からくり時計の除幕から1カ月が経ち、現在では宮島を訪れる観光客を楽しませる新たな観光名所となっています。地区ガバナーの福永栄一さんは「より観光面での活躍に期待していきたい」と話されました。



からくり時計は8時から17時まで1時間ごと正時に宮島ゆかりの平清盛と蘭陵王(らんりょうおう)の人形が姿を現します。

災害に強いまちづくりに向けて

災害時における飲料などの提供協定を締結

11月2日、市と㈱アベックス西日本が「災害時における提供協力に関する協定」の締結式を市役所で行いました。

この協定は、災害時の飲料や食料、生活物資の提供を目的としたもので、あいプラザに設置のカップ式飲料自動販売機を災害対応型に変更しました。なお、災害時には10,000カップを上限とし、平常時には防災訓練の際に一定数を、無償提供していただけます。



㈱アベックス西日本の加藤徹郎(かとう・てつろう)取締役社長(写真左)、眞野市長(写真右)の署名により協定が締結されました。

宮島工業高等学校創立50周年

地域の「ものづくり産業」を担って50年

宮島工業高等学校が創立50周年を迎え、11月17日、さくらびあ大ホールで記念式典が行われました。式典の中で、安保悦朗校長は、「新しい歴史を作る一歩にしたい」とあいさつ。

昭和37年、大竹高等学校大野分校を仮校舎にスタートし、翌年に現在の新校舎に移転した同校。現在までに1万2千人を超える卒業生を送り出し、地域の「ものづくり産業」を担っています。



式典を盛り上げた吹奏楽部による演奏。生徒は、校訓である「技心(ぎしん)」を常に追求しています。



写真1 陶器の手ひねり体験をする岡本さん親子。「今回は子どもと体験できてよかった」と語ってくれました。写真2 会場にはけん玉コーナーもあり、来場者はNPOけん玉協会の講師の手ほどきを受けながら楽しんでいました。写真は技の飛行機に挑戦する森永琴音さん。写真3 ロク口実演では、来場者は普段は見ることのない技を興味深そうに見ていました。

第11回宮島お砂焼きまつり

宮島口発、秋のおもてなし

10月21日、宮島口桟橋前で第11回宮島お砂焼きまつりが行われました。まつりは多くの人でにぎわい、会場では晴天の秋空の下、陶器市や雑貨市が開かれ、訪れた人の目を楽しませました。

大野瀬戸のグルメ市では、かきフライやあさりのかき揚げなどが販売され、お昼時には買い求める人が大勢いました。

JR宮島口駅からの歩行者天国ステージでは、宮島太鼓の演奏や大野東小学校児童によるダンス、鼓笛隊によるパレードも行われました。

まつりのオープニングでは宮島工業高校インテリア科の生徒による宮島三女神物語と宮島の四季をモチーフにしたグラフィックデザイン画が紹介されました。このデザイン画は、宮島口地下道に常設されています。

極楽寺大茶盛り

茶わんは三十杯分 道具や菓子器まで特大

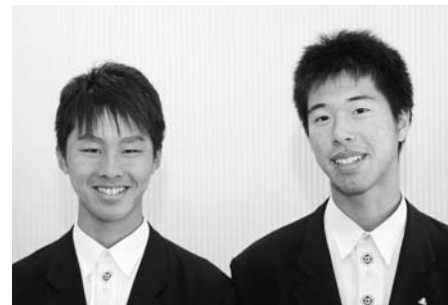
10月27日、極楽寺で特大の茶道具を使って行われるお茶会が行われました。

茶碗だけでなく、道具の全てが大きいのが特徴で、使用する茶わんは宮島お砂焼の故・川原陶斎氏の作品。大きな茶せんでたてたお茶を数人で協力して味わいます。

本堂ではこの日特別開帳された千手観音や、全高8mもの木製阿弥陀如来を拝観することができました。



写真左から塩川さん、木上さん。「二人でタイミングを合わせるのが難しかったです。とても貴重な経験ができました」と話してくれました。



広島県立宮島工業高等学校ポート部 野本 耕司さん(ののもと・こうじ 写真左) 矢野 哲圭さん(やの・てつよし 写真右) 広島県立宮島工業高等学校3年 第23回全国高校選抜ポート大会男子ダブルスカル優勝。第24回全国高等学校総合体育大会ポート競技大会男子ダブルスカル優勝。

はつかいちさくら賞

ひとすじに、 尽くして晴れやか

「はつかいちさくら賞」は、市の生涯学習の普及・推進に貢献した個人や団体を表彰するもので、11月4日、生涯学習フェスティバルの会場で次の方々を表彰しました。



石津 優さん(いしづ・ゆう) 第30回オリンピック競技大会(ロンドン)アーチェリー男子団体入賞

市と大学の協力体制広がる

広島工業大学と 包括的連携協力を締結

11月9日、市と広島工業大学が、「包括的連携協力に関する協定」を締結しました。

市と大学は、これまでも市内企業の研究室訪問や大学教員の各種審議会への参画、宮島での公開講座の実施など、幅広い連携・協力を行ってきました。

今後も地域の活性化を目指し、多分野から地域の諸問題の解決や地域政策の研究を協働で進めていきます。



鶴衛(つる・まもる)学長(写真右)は式のなかで「各学部の学生、教員と連携をとりながら廿日市市の発展に取り組んでいきたい」と話しました。

国体アーチェリー競技少年男子個人優勝

佐伯中河田悠希選手 高校生を押さえて優勝

10月2日に岐阜県で行われた国体アーチェリー競技少年男子個人で優勝した佐伯中学校3年生の河田悠希さんが10月30日、市長を表敬訪問しました。県代表で唯一の中学生として出場した河田選手。高校生を押さえ、初出場でトップの座をつかんだ。

「まわりの空気に流されることなく弓を弾きました」と河田選手。眞野市長は「次のオリンピックを目指してほしい」とエールを送りました。



「次の目標は佐伯高校に入学し、インターハイで優勝することです」と語る河田選手(写真左)。

第22回自衛消防隊消防競技大会

自衛消防隊員の 消火技術を競う

10月23日、「第22回自衛消防隊消防競技大会」が木材港北昭北グラウンドで開催されました。

市内の各事業所から60チーム149人の自衛消防隊員が参加し、消火器の部、屋内消火栓の部、動力消防ポンプの部に分かれ、初期消火技術を競い合いました。

強風が吹くあいにくの状況の中、競技に真剣に取り組む姿に応援席からは拍手や声援が送られていました。



競技結果▼消火器の部優勝デリカウイングデザート工場▼屋内消火栓の部優勝平等大慧会▼動力消防ポンプの部優勝広島ガス廿日市工場

上田宗箇追慕祭、岩船の水で

「そうかさあ」と呼ばれ、 親しまれた茶人をしのぶ

10月27日、浅原の岩船の水のほとりで、「上田宗箇追慕祭」が行われました。関係者や地域住民ら約80人が参列し、宗箇が愛した岩船の水でたてた茶を楽しみました。

江戸時代の武人であり、茶人としても知られる上田宗箇は、晩年浅原に隠棲し、村人からは「そうかさあ」(宗箇さん)と呼ばれて親しまれました。没後、戦争のため一時中断したものの、毎年追慕祭が開かれています。



地元浅原小の児童らが参列者に接待。茶菓子と岩船の水でたてた茶が、岩船の砂を入れて焼いた茶器で振る舞われた。